

北般若だより

2025 年（令和 7 年）8 月 1 日
第 341 号
北般若自治振興会
北般若公民館

第 60 回戸出七夕まつり

去る7月4日から7日にかけて、高岡南部最大イベント「戸出七夕まつり」が真夏を思わせる熱気の中で開催された。

この七夕まつりは60数年前に戸出東町の柴田米麺店の主人等が戸出商店街の活性化と地元住民のお客様への感謝を表すべく、始めたものだそうです。この戸出七夕まつりは、コロナ禍の令和2、3年は中止となり4年から再開し、今年の令和7年の開催が60回目となりました。

コロナ禍以前には、大型竹飾が多い年は町内毎に20本余り設置され、コンテストで競っていました。今年は、大型竹飾りは9本と往時の半分となって往時を知る人達にはちょっと寂しい祭りになっているのかもしれませんが。しかし、実行委員会では「本物の竹を使った七夕で日本一、ということは世界一の美しい七夕祭り」と謳っています。また、60回目の七夕祭りということで、前年500本であった竹飾りを800本に増やして大いに盛り上がった祭りとなりました。



その中で北般若からは例年の7本から倍増の14本の竹飾りを出展、内10本を東町ひこま店さんの好意により、旧街道沿いのお店隣りの住居前に設置させて頂き、北般若の看板も設置、おおいに祭りを盛り上げられたものと、北般若の児童・親御さん・自治公民館長・自治会長・ひこま店の皆様に感謝申し上げます。

また、期間中に催された各イベントには北般若の住民をはじめ、近隣の住民や外国人もつめかけおおいに賑わい、60回の記念となる戸出七夕まつりが成功のうちに終えられたものと確信しています。

自治振興会長 玉井邦昭

北般若分団 ポンプ車操法で優勝

第20回高岡市消防団消防操法大会が7月6日、高岡地方卸売市場で行われ、ポンプ車の部で北般若分団が初の栄冠に輝きました。

北般若分団は、梅島徹、長谷川達也、竹田智博、林孝儀、山崎仁達5名が指揮者の



山田雅治の下、機敏な動きと正確な操法を披露しました。分団員は仕事を終えた後、毎日午後7時から約2時間、戸出消防署及び和みホール駐車場において出場選手の操法訓練、それ以外の分団員による的確なサポート活動を行った。大会は出場分団中最短時間を記録し、機敏な動きで大変きれいな操法でした。

北般若分団は7月26日に第76回富山県下消防団消防操法大会に出場します。春日自治会長 塚本潔

名誉会長賞をいただいて

今年6月、西部金屋の林桂子さんが県食生活改善推進連絡協議会総会において名誉会員表彰を拝受されました。名誉会員の対象となるのは、会員在籍5年以上、満90才以上の方となっています。

林さんは「ずっしりと重い名誉会員賞を手渡され、この重さの役割を果たして来たのだろうか」と反省しました。私は20数年前に当会の会員教育機関の担当として会員育成に関わり、現在は推進員として地域の皆さんと直接関わる立場となっています。現在の一番の目標は、住民として対象者の実践状況を知り、改善点があれば伝えることです。90才の私にできることがあれば何でもやりたいと思っています。最後に、会員皆様のお陰で名誉会員賞をいただきました。ありがとうございます」と話して下さいました。



青年農業家 不破大介さん紹介

昨年同だよりで青年農業者が集うフェスティバルの意見発表で県知事賞に輝いた不破大介さん(大清水)を掲載したが、米が関心事のおり、再取材しました。



不破さんは、現在44歳で大清水・春日・吉住で田圃42ヘクタールをほぼ一人で耕作して米作りを行ってられます。かたわら美味しいと戸出七夕まつりに出品し話題だった『ふわんち』の稲荷寿司も作っておられ、イベントが模様される時に出品しているそうです。出品するきっかけは、子供のために自宅で作っていた稲荷を子供が「おいしいからきつと売れるんじゃない」が始まりと言っていました。その他、こども食堂にお米を寄付しボランティアにも積極的に参加されています。地区の仕事としては大清水西部生産組合長、今年から北般若生産組合長会の代表という大役を務めておられます。

農業をやろうと思ったのは、生家は農家ではありませんでしたが、子供がプロ野球選手や消防士に憧れるように農業がかっこいいと思っており職業としたいと考えていたからです。米作りをやっている大変なところは農業機械の更新費用の捻出で、トラクター購入で1千万円以上かかるそうです。今一人でやっていますが将来的には、人を雇用できる規模を目標としたいとのこと。 「北般若米はいくらぐらいの価格で買ってもらいたいですか」の問いに、「生産原価に30%ぐらいの利益が乗った価格が理想」と答えてくれました。また現在の米政策などについては、「現状の対処ではなく、未来の保険的なことを手厚くやって欲しい」でした。「将来の夢は、農業が農家の家業ではなく誰でもなれる職業の選択肢になるような定年退職制度を導入した持続可能な企業になればと思っている」だそうです。

取材した不破大輔さんは、令和の米騒動の一因となった農家の高齢化と後継者不足による生産意欲の減退に一石を投じる若手農業従事者の一人だと思います。

北般若地区には、他に不破さんのように若手の専業従事者の方がおられます、北般若は農業をなりわいとしていた地域で田園が広がっています。その景観を守るためにもみんなで応援したいものです。 宮東征夫

高齢者だけの家族をどう見守る？

西部金屋の人口は約470名、世帯数200(令和5年高岡市調査)、平均年齢50歳(推定)と核家族化と高齢化が進んでいる。今やれているが加速度的に出来なくなる時が直ぐそこにあることから、「一人又は二人暮らしの高齢者世帯を対象にどのように関わっていくのか」に照準を当て、昨年より検討会を立上げその議論を進めてきた。方策としては対象方々の暮らしぶりを拝見したり伺ったりして困り事や相談事を捉えることを第一に話し合ってきた。

しかしこのアプローチは、人間がもつ弱さや悲しみを見せたがらないさがゆえに、隣人が入り込むことが難しいことから、専門の第三者の支援を頂き進めるという結論に至った。7月末に社会福祉協議会の地区生活支援コーディネーターにお手伝い頂いて、当地区の見守り委員はじめ民生委員や福祉活動員と連携し、3か月を目標に活動計画をまとめ実行して、年末までには地域包括支援センターの職員にも参画頂いて、地域内で自立出来るように進めていきたい。 西部金屋 見守り委員

夏休み!! 公民館へおいでよ

今年も『夏休み！北般若公民館開放』を行います。夏休み期間中、公民館で自主的学習・地域交流のイベントを開催。暑い夏を楽しく乗り切りましょう。

7/28～8/22 午前10時から午後3時30分

事前の申し込みはいりません。(別紙チラシ参照ください)

8月7日(木) 13:30～ 北般若公民館

南高校生と語る「戦争と平和」

県内の子供らに富山大空襲を語り継ぐ「輪音」。立ち上げた高岡南高校の薬師子龍さんたち高校生有志のボランティア団体を迎え、「戦争と平和について考えるきっかけを」を開催。子供たちにも年齢に近い高校生の話を聞いてもらいます。大勢のお子さん、地域の方々、震災体験者の方々の参加を待っています。 青島幸子

北般若地区等の動き

8/5 第46回 北般若花壇コンクール

8/9 大清水納涼祭

8/10 西部金屋 納涼盆踊り

8/16 第72回北般若慰霊祭

8/21 なのはな元気教室

